

# 地域に根付く 工務店をめざして

〓 源右衛門窯

**篠** 山市今田町上立杭の丹波立杭焼の里に、長年続く名家の焼物の窯元があります。

現在は5代目となる市野晃司氏と息子さん(市野太郎氏)が中心となって窯を守っておられます。2代目の陶名「源右衛門」を、今も屋号として引き継いでおられます。

昨年、息子さんから依頼を受けて、お店を改装させて頂きました。「前より明るくなって、開口が広くなり、入りやすくなったとお客様が言って下さいました。」とのこと。



照明器具の笠は太郎氏の作品



「しのぎ」の器

お店の中にはとても素敵で色んな器(日常の食器を主に作っていると云われました。)が並んでいます。思わず手にとってみたくなる。

食卓に並べて料理を盛ったり、お茶を飲んだりするのを想像して、わくわくしました。

伝統工芸士のお父さんはしのぎという工法や、伝統的な作風。息子さんはクラフトデザイン的な若い人向けの作風。

どちらも味があって、どちらも素敵でした。また、美術的な作品は、年に一度か二度、昔ながらの歴史のある登り窯で焼かれるそうです。重みのある作品が置いてあります。(Y.OOMAE)

## 〓 源右衛門窯

営業時間 / 10:00~17:00

定休日 / 不定休 (ほとんど開けていますとのこと)

住所 / 篠山市今田町上立杭 451

電話 / 079-597-2650

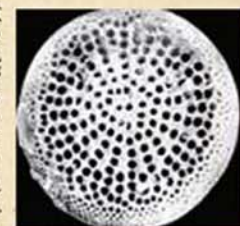


## 施工状況

多可町の長期優良住宅 Y 様邸は、4月末完成に向けて着々と工事が進行しています。床は杉の無垢材、4LDKの2階建て。完成時には見学会をさせていただき予定ですので、その時は是非お越しください。

## 日々、木と暮らす

### 珪藻土



家を建てる際、快適な室内環境をもとめて、素材から検討されることが増えてきました。その中でも、家の中の仕上材としてご要望の多い珪藻土について簡単な説明をします。

珪藻土とは、海洋や湖沼、河川に生息する珪藻という植物性プランクトンの死骸が海底や湖底に堆積し、何百万年、何千万年という年月を経て化石化したものです。

それをすりつぶして粉状にし、壁や天井の仕上材に混ぜて使用します。ではなぜそのような土で壁の仕上げをするのでしょうか?

それは珪藻土が、空気中の水分を吸ったり吐いたりする、調湿効果に優れているからです。

珪藻土は、多孔質(無数の孔があいている)であるため、その一つ一つの孔に水分を持つことができるため調湿効果に優れるのです。

調湿効果が優れていると、室内の湿度が程よく調整され結露やカビの発生を抑制することが出来ます。

一般的にクロスよりもコスト高なので、全体ご予算を考慮しながらとなりますが、以前から当社でもこの珪藻土の左官壁を採用されるお客様も多いです。

(ANISHITANI)

## 自由帳

篠山市特産品の黒大豆の事

我が篠山市には、おいしいもの、特産品が色々あります。

その中でもダントツに有名な物が黒豆です。大粒で煮るともっちりして、やわらかく、味には定評があります。定番は甘露煮です。

10月頃に枝豆として、ゆでて食べるとこれも又、最高です。

その他にもケーキに入れたり、黒豆パン、黒豆酒、ゼリー、黒豆のボン、甘納豆、きな粉等々、市広く使用出来ます。

その中で、私のおはこは黒豆ごはんです。一晩水につけた黒豆をお米と一緒に入れて炊きます。炊き上がった黒豆ごはんに味付酢を混ぜると、うすいピンク色の黒豆寿司が出来ます。

とても簡単で、ちょっとしたおもてなし用にも出来るので、私のここの一番の定番メニューです。

やさしい桜色の黒豆寿司で春を感じて下さい。

(Y.OOMAE)

今年で40になります。ちょうど21年前の今ごろ、灰色がかって気持ちで浪人生活をスタートさせました。ただ、その1年は素晴らしい出会いがたくさんあり、今では貴重な40分の1年となっています。今の仕事でもお客さまとのステキな出会いが多々あり、仕事以外の場所でも偶然お会いすることも出てきました。お客様とばったり出会ってお話できることはわたしにとって何よりうれしいことでもあります。

出合いの多いこの季節、いえ、季節を問わずお客さまとの素晴らしい出会いがこれからも増えますように。

(T.OOMAE)

## 編集後記

## 大市日記

DAICHI NIKKI

### いつもの散歩道

日頃の運動不足を解消するために少しでも、たまに家の近所を歩いてみる。一人の時もあり、友達と一緒に歩くこともある。一人の時は、季節ごとに変化する山々を見ながら歩く。今田の山は、こぶし、山桜、新緑、紅葉と季節ごとにとっても美しい。また、その山裾には家々が段々に建ち並び、所々には登り窯も見え、陶芸の郷独特の風景が広がる。生まれ育った場所の当たり前の景色だけれど、年を重ねるごとにいいものに思える。

通りにある別荘の花畑を見るのも楽しみ。時には花の名前を教わったり、苗をいただいたり。夕方だと犬の散歩中の人にも出会って挨拶をする。そして、左側には住吉神社が見えてくる。うっそうとしていた神社も地域の皆さんの



ボランティアのおかげで随分と見通しがよくなった。友達と歩く時は、鳥居の前で待ち合わせて、神社に手を合せてから歩き出す。お互い、健康が気になる年齢になってきた。とりとめもない話をしながら、だらだらならないよう意識して歩く。いつも明るい彼女と出会うと私も元気をもらう。

陶芸美術館の下を通り過ぎ、陶の郷への坂が上がっていく。美術館は10年前、陶の郷ができてからはもう随分経つが、私の子供の頃は、この辺りは山で生活の糧の場であり子供の遊び場でもあった。ささゆりやきのこと探りも行ったな。そんなことを思いながら、気休め程度の運動かもしれないが、心身のリフレッシュを目指してできるだけ続けたい。

(T.KUROKI)